

■ 概況

当週（11月20日～26日）の国際石油市場は、ウクライナ停戦を巡る米国提案を軸に、ロシア原油の供給をめぐる観測で、やや軟調に展開した。

NYのWTI原油先物市場は、11月20日に59.14ドルで始まり、21日に58.04ドルまで3日続落、週明け24日は58.84ドルに反発、25日は27.95ドルに反落、26日は反発の58.65ドルと、50ドル台終わりでもみ合いを続けた。

また、中東産バイ原油/東京市場（12月渡し）も、前週（11月13日～19日）は63.30～65.20ドルの範囲で推移したが、当週は、11月20日64.00ドル、21日63.20ドル、24日休場、25日63.30ドル、26日63.10ドルだった。

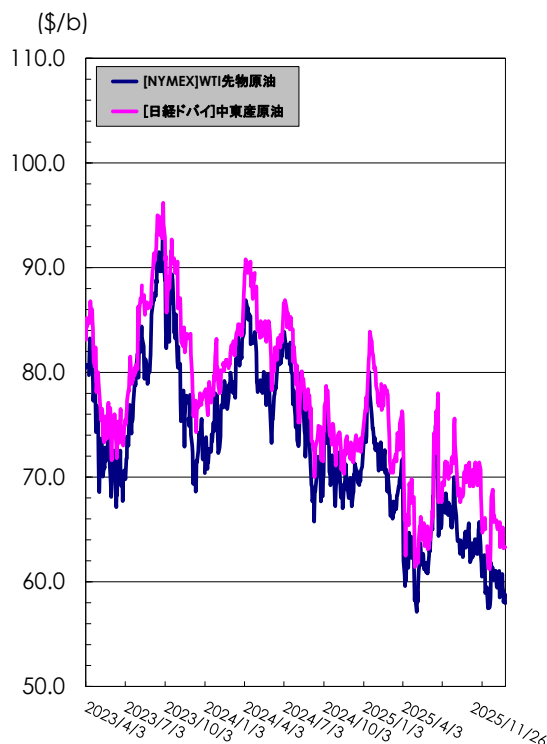
対ドル為替レート（TTM）は、前週（11月13日～19日）153.24～155.54円の範囲で推移したが、当週は、11月20日157.29円、21日157.49円、24日休場、25日156.87円、26日156.38円だった。

財務省が11月21日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、10月下旬の原油輸入平均CIF価格は70,557円/KLで前

旬比907円/KL高、ドル建てでは74.08ル/Bで前旬比0.69ドル/B高、為替レートは1ドル/151.43円。また、10月月間の原油輸入平均CIF価格は69,889円/KLで前旬比1,096円/KL高、ドル建てでは74.28ドル/Bで前旬比1.26ドル/B高、為替レートは1ドル/149.57円。

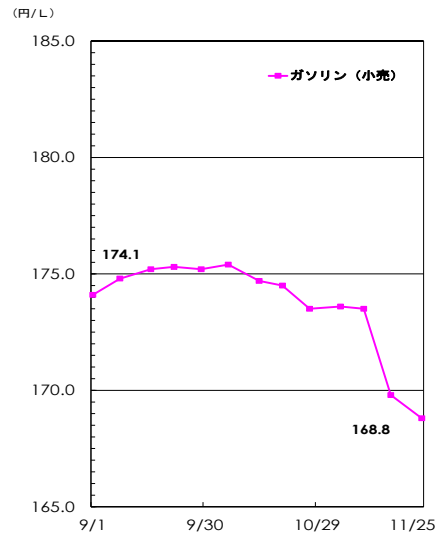
そのような中で、11月25日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比1.0円安、軽油も同0.8円安、灯油は同1円高（18リットルベース）だった。ガソリンの全国平均価格は168.8円だった。11月27日～12月3日の燃料油補助金の支給額は、いわゆる暫定税率の廃止に向けた段階的拡充に伴い、ガソリンは5円増額され20.0円、軽油は2.1円増額の17.1円、灯油・重油の場合は据え置ききの5.0円となった。

原油		今週		前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	11/16 ~ 11/22	2,624	▼ -69	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	〃	75.8	▼ -2.0	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	11/22	10,001	▼ -402	▲ -
価格	中東産原油 (日経ドバイ) (\$/bbl)	11/25	63.30	▼ -1.10	▼ -10.6
	WTI先物原油 (NYMEX) (\$/bbl)	11/24	58.84	▼ -1.07	▼ -10.1
	原油CIF単価 (\$/bbl)	11月上旬	72.61	▼ -1.47	▼ -7.62
	①原油CIF単価 (¥/kl)	〃	69,360	▼ -1,197	▼ -4,243
	②ドル換算レート (¥/\$)	〃	151.85	▼ -0.42	▼ -6.00
	外国為替TTSレート (¥/\$)	11/25	157.87	▼ -2.17	▼ -2.62



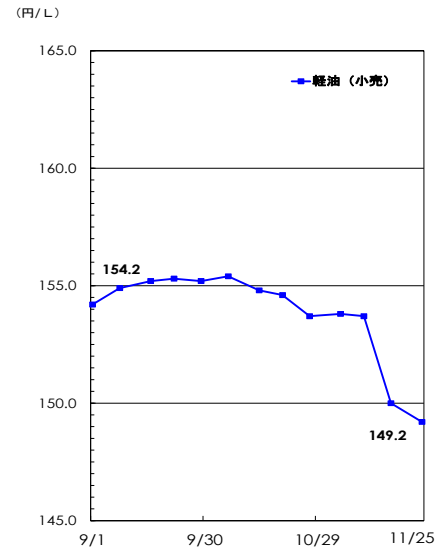
		(単位：千kl、円/%)			
ガソリン		今週		前週比	前年比
需給	在庫	11/22	1,754	▲ 104	▼ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 11/18 ~ 11/24	75.0	▼ -3.0	▼ -5.0
		(TOCOM/中部) 11/21	73.0	➡ 0.0	▼ -11.0
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 11/25	168.8	▼ -1.0	▼ -6.1

※先物価格は税抜き価格

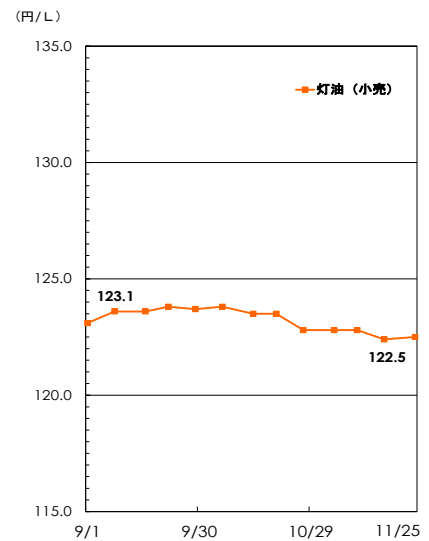


		(単位：千kl、円/%)			
軽油		今週		前週比	前年比
需給	在庫	11/22	1,440	▼ -7	▼ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 11/18 ~ 11/24	74.2	▼ -2.7	▼ -8.3
		(TOCOM/中部) 11/21	-	-	-
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 11/25	149.2	▼ -0.8	▼ -5.4

※先物価格は税抜き価格



		(単位：千kl、円/%)			
灯油		今週		前週比	前年比
需給	在庫	11/22	2,398	▼ -139	▼ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 11/18 ~ 11/24	86.0	➡ 0.0	▲ 6.0
		(TOCOM/中部) 11/21	84.0	➡ 0.0	▼ -1.0
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 11/25	122.5	▲ 0.1	▲ 5.3



■ 関連情報

1 海外/原油（WTI原油先物市場）

前週(11月13日～19日)のNYMEX・WTI先物市場は、58.69～60.74ドルの範囲で推移した。

当週11月20日は、朝方、米国雇用統計の予想を上回る好調な発表もあり、買い優勢で始まったが、ポジション調整の売り買いがあり、午後からは、ゼレンスキー大統領が米陸軍司令官と会談し、米国の和平提案に前向き発言するなど、ウクライナ停戦に向けた期待感の拡大に伴う緊張緩和で、続落した。12月物終値は前日比0.30ドル安の59.14ドル。

週末21日は、ウクライナのゼレンスキー大統領が米国のバンス副大統領と電話会談したと伝えられ、米国の停戦案は領土割譲を含むロシア有利な内容であるものの、停戦に向けてさらに近付いたとの見方から、3営業日続落した。この日から取引の中心限月に繰り上がった2026年1月物終値は前日比0.94ドル安の58.04ドル。

週明け24日は、ウクライナ和平交渉の行方が注目される中、米国の早期の追加利下げへの期待が高まり、4営業日ぶりに反発した。週末の約1か月ぶりの安値を意識した買いも、多かった模様。1月物終値は前週末比0.78ドル高58.84ドル。

25日は、ロシアによるウクライナ攻撃が激化する中、ゼレンスキー大統領が近日中に訪米、トランプ大統領と会談する

意向であるとの報道が流れ、米国停戦案を軸とする停戦観測が高まり、対露経済制裁も緩和されるとの見通しから、反落した。ただ、米国株式市場の回復は、投資姿勢を積極化させ、価格を下支えする面もあった。1月物終値は0.89ドル安の57.95ドル。

26日は、ウクライナ停戦交渉が進捗し、需給緩和感の拡大する中、OPECプラスの主要国が30日の会合で、予定通り12月の減産緩和停止を確認するとの観測が高まり、また、27日の感謝祭の休日を前に、ポジション調整の買いもあり、反発した。なお、この日発表のEIAの米国石油在庫報告は、原油、ガソリンともに積み増しとなったが、大きな影響はなかった。12月物終値は0.70ドル高の58.65ドル。

2 海外/米国石油市場

米国エネルギー情報局(EIA)の11月26日発表の21日現在の米国在庫週報によれば、原油在庫は前週末比280万バレル増、ガソリン在庫は250万バレル増と、ともに市場予想に反する積み増しで、需給緩和感が高まったが、主な要因は輸入増加との見方から大きな影響はなかった。

EIAによると、11月24日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比0.1セント安の1ガロン3.061ドル(126.4円/ℓ)と3週ぶりの値下がり、ディーゼル小売価格は、前週比3.7セント安の1ガロン3.831ドル(158.9円/ℓ)と5週ぶりの値下がり。

ペーカー・ヒューズ社によると、11月21日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比2基増の419基であった。また、感謝祭の休日(27日)を前に、26日発表の同統計は

同12基減の407基であった。

3 国内/原油処理量

石連週報によれば、11月16日～11月22日に休止したトッパー能力は38.4万バレル/日で、前週に対して3.5万バレル/日減少した(全処理能力は311.0万バレル/日)。

原油処理量は262.4万klと、前週に比べ6.9万kl減少。前年に対しては12.2万klの減少。トッパー稼働率は75.8%と前週に対して2.0ポイントの減少、前年に対しては3.5ポイントの減少となった。

4 国内/製品在庫量

11月22日時点の在庫は、前週に対してガソリン、C重油は積み増し、ジェット、灯油、軽油、A重油は取り崩しとなった。

ガソリンは175.4万kl、前週差10.4万kl増。前年に対しては16.2万kl少ない。

灯油は239.8万kl、前週差13.8万kl減。前年に対しては29.3万kl少ない。

軽油は144万kl、前週差0.7万kl減。前年に対しては13.6万kl少ない。

A重油は78.4万kl、前週差1.3万kl減。前年に対しては1.3万kl多い。

C重油は165.1万kl、前週差11.4万kl増。前年に対しては1.0万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (11/22)	前週 (11/15)	前週比
ガソリン	1,754	1,650	▲ 104 (6%)
ジェット燃料	743	813	▼ -70 (-9%)
灯油	2,398	2,537	▼ -139 (-5%)
軽油	1,440	1,447	▼ -7 (-0%)
A重油	784	797	▼ -13 (-2%)
C重油	1,651	1,536	▲ 115 (7%)
合 計	8,770	8,780	▼ -10 (-0.1%)

5 国内/元売会社製品卸価格

11月18日～24日のドル建て中東原油価格は前週比わずかに値下がりしたが、為替レートはそれ上回る円安であった。ただ、元売会社の卸建値は据え置かれたものと見られる。さらに、暫定税率廃止に向け補助金は段階的拡充中だが、今週の補助金(11月27日～12月3日)は、5円増額(揮発油・軽油は20円)され、補助金込みの実質卸価格は5円引き下げとなった模様。なお、灯油・重油は据え置きとなった。

6 国内/製品小売価格

11月25日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.0円安の168.8円、軽油も同0.8円安の149.2円、灯油は18%ベースで同1円高の122.5円(1%ベースでは同0.1円高の122.5円)。ガソリンは3週連続の値下がり、軽油も3週連続の値下がり、灯油は3週ぶりの値上がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは2県、横ばいも1府、値下がり44都道府県だった。全国最安値は愛知県の162.5円、その次は埼玉県の162.5円であった。他方、最高値は鹿児島県の179.9円。最も値上がりしたのは和歌山県(前週比1.6円高)、最も値下がりしたのは沖縄県(同3.2円安)だった。

次回調査時(12/1)のガソリンの小売価格は、値下がりか予想される。

(単位：円/ℓ)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (11/25)	前週 (11/17)	前週比	直近高値
レギュラー	168.8	169.8	▼ -1.0	2023/9/4 2025/4/14 186.5
灯油	122.5	122.4	▲ 0.1	08/8/11 132.1
軽油	149.2	150.0	▼ -0.8	08/8/4 167.4

※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。
次回 (2025第35号) の公表は、12/5 (金) 14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange:NYMEX)WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場(取引の中心限月)の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate:中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。